

実施項目ごとの目標と根拠			
実施項目	中間目標	最終目標	根拠
自生ヤナギの探索、 優良系統抽出、 優良系統穂木採取 （宮崎サイト）	自生ヤナギ穂木採取 3,600本 優良系統抽出 120株	自生ヤナギ穂木採取 3,600本 優良系統抽出 180株 優良系統穂木採取 9万本	・15絶乾トン/ha/年以上の収量が見込める系統を確保するために、多系統から優良系統を絞り込む。 ・年間100万本以上の増殖/穂木生産を3回実施する。 （3万本×3回）
採穂園造成、 優良系統植栽、穂木増殖	採穂園造成 9.2ha 優良系統植栽・増殖 3.6万株	採穂園造成 11.2ha 優良系統植栽・増殖 14.1万株	・千葉、宮崎それぞれにて、年間100万本以上の穂木共有体制に必要な採穂園面積。 ・穂木1本を植栽して、2年後には1株あたり50本の穂木を収穫予定。
穂木の収穫、加工		穂木収穫300万本	・千葉、宮崎のそれぞれで、年間100万本以上の供給体制構築に向けて、千葉で200万本、宮崎で100万本の収穫を実証
ヤナギバイオマス低コスト生産実証	生産地造成 9.3ha 植栽 7.2万本	生産地造成19.1ha 植栽 20万本	・“商業ベース”のために不可欠な大規模集約化された生産地の確保。 ・生産コスト削減に向けたPDCA、コスト検証に必要なデータ確保に必要な施業量。

